

中間報告書

補助事業名	共生と分有のトパス ～芸術と社会の交差領域におけるメディエーター育成事業							
事業期間	2023年04月01日(土)～2024年02月29日(木)			大学名	公立大学法人 京都市立芸術大学			
実施概要	<p>令和5年の10月に京都市立芸術大学は京都駅東部の崇仁地域へ全面移転する。被差別の歴史を有するこの地域への大学移転は、行政、大学、地域住民の間での長期にわたる折衝を経て実現したものであり、芸術が有する独自性を深化させつつ、まちづくり構想にも開かれた役割をも担う。本事業では、地域・大学・芸術の関係について積み重ねられてきた調停から現れる「共通の属性」と「相容れない属性」、この複雑な関係について思考を重ねる。この目的のため以下の3つの活動を軸に進める。</p> <p>【テーマ 環境:活動-1 聞くこと～暮らしの生態系】 フィールドワークやモノを介した対話をモデルとして「暮らしの生態系」から聞く技術</p> <p>【テーマ ケア:活動-2 物語ること～アルバムに貼られていないスナップショット】 言葉・イメージ・身体を介して経験を再構築し伝える技術</p> <p>【テーマ 公共空間:活動-3 Still Moving ～崇仁でゴドーを待ちながら】 活動-3は、活動-1と活動-2でのリサーチを基盤に、取り壊された住宅の痕跡が残る空き地に仮設的な舞台を設営する。ここで準備～設営～展示公演～解体～移動～記録というプロセス自体が古い課題を新しい視点から見るための地域との協働的な集団制作行為となる。</p> <p>本事業は受講生と共にどのように代替的な公共的手段を見つけることができるかという疑問から出発し、社会領域と共に芸術と教育それ自体にも対峙する二重の繊細な地平線を進行しつつ進められる。</p> <p>※ 詳細(講座名、講師名、コマ数、公演名、会場名、公演回数等)は下部の各活動欄に記入してください。</p>							
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	京都市都市計画すまいまちづくり課(京都市が管理する空き地の利用と地域との連携)、東山アーティストプレジデント Social Work / Art Conference(芸術と社会の関係構築)、旧柳原銀行記念資料館(地域の人権の歴史と歴史と資料の提供)、京都市下京区いきいき市民センター(地域住民との緩やかな交流のサポート)							
全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由				
来場者	600	58	-542	受講者と育成対象者数につきましては、計画時との違いはございません。入場者数につきましては、現時点において一般公開のイベントを開催しておりませんが、10月以降から随時、一般公開を含めたイベントの計画も行なっております。				
育成対象者	30	48	18					
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	27	0	3	3	0	9	6
育成対象者具体的な職業	学生:京都大学大学院、京都市立芸術大学・大学院、京都医健専門学校 文化施設職員:生涯学習施設関連 公共機関職員:大学事務職員 民間企業:IT関連、広告関連、出版関連 その他:自営業							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	<ol style="list-style-type: none"> ①作品の循環について既存のマーケットとは異なるオルタナティブなモデルの構想を学ぶ。 ②地域での参加者だけでなくオンラインも含む多層的な鑑賞者へとコンテンツを届ける方法を学ぶ。 ③プロジェクトの企画を実現するための計画や設計力を身につける。 ④「聞くこと」「物語ること」「状況の再構築」、この3つを展示やキュレーションの根本原理として身につける。 ⑤学びの場で活用できるワークショップのデザイン技術を知る。 ⑥いかに芸術であるかのように授業を生きさせるかという問いへの手がかりを掴みとる。 				受講に入る前の事前勉強の動画やテキストの共有、振り返りのための意見交換、フォローアップのテキスト配布などにより、知識と経験が定着する工夫を進めており、受講生からの反応からも良い感触を得ている。			
事業の社会的な役割、効果	申請時				達成状況			
	<ol style="list-style-type: none"> ①芸術大学が有する創造知・技術・資源を社会的に活用できる。 ②創造性を活用した新たな教育プログラムの構想に寄与する。 ③まちづくりなど地域市民が抱える問題をアートを介して共有可能で普遍的な問いへと展開する。 ④多様で異なる専門職につく社会人の創造的ネットワーク構築の場を提供できる。 ⑤情報ネットワークとの共存と自律によるアートの提案。 ⑥多文化や環境との共生を試行する芸術活動のモデルとなる。 				現時点では、受講生を中心にした少人数での講座の形で進めている。今後は、一般に向けた公開授業や展示等の開催、SNSなど多様な手法での発信を行うことで役割を果たしていく計画である。			
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	NHK Eテレ:日曜美術館「天にささげる“霧” 霧の彫刻家・中谷芙二子」(初回放送日:2023年9月3日)番組内にて放映。 オンラインでは、トヨタアートマネジメント、Art Scape アートフラッシュニュースに掲載。 今後はシンポジウムや展示などに関して研究機関での発表も予定している。							
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	本年度は郊外型のキャンパスから都市型キャンパスへの移行ならびに新型コロナの5類への移行があり、複数の現場で対面でのプログラム運営ができるようになった。オンラインでは伝えにくかった身体的な経験、掴み惜しかった受講生からの反応など、これまで感じてきた運営の難しさから解放された。その一方で、オンライン形式で得た経験としては、異なる背景やリテラシーを持つ受講生との個別の期待と、運営側の目標水準とを調停する手法を事前資料やふりかえり資料として活用、共有する方法が定着しつつある。							
担当者所属・氏名	京都市立芸術大学 教務学生課:阿部 慧	電話	075-585-2004					
		E-mail	s_abe@kcuu.ac.jp					

活動①

講座名 企画名	テーマ 環境:聞くこと～暮らしの生態系							
講師名 出演者名	奥山理子 (Social Work/Art Conferenceディレクター／みずのき美術館キュレーター) 倉智敬子 (美術家) 小松千倫 (美術家／音楽家／DJ) 清水チナツ (インディペンデント・キュレーター／PUMPQUAKES) 高橋 悟 (美術家／本プログラムディレクター／京都市立芸術大学教授) 徳山拓一 (森美術館アソシエイト・キュレーター) ※10月以降より、招聘 長崎由幹 (映像技術者／PUMPQUAKES) 山内朋樹 (美学／京都教育大学准教授／庭師) ※10月以降より、招聘 山本麻紀子 (アーティスト／京都市立芸術大学非常勤講師)							
日時	2023年08月26日(土)、09月23日(土) ※2023年09月30日以降、継続中			コマ数	2コマ ※2023年09月30日以降、継続中			
会場・教室	京都市下京いきいき市民活動センター、 京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺、 公立大学法人京都市立芸術大学 (新校舎 F棟:構想設計プロジェクトルーム)				計画	実績	差	
				来場者	200	25	-175	
				育成対象者	10	16	6	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	9	0	1	1	0	3	2
実施概要	「テーマ 環境:聞くこと～暮らしの生態系」では、変容を遂げつつある地域の独自の文化や暮らしの生態系に着目する。人類学的フィールドワーク、オーブンダイアログなど「ケアのロジック」、暮らしに関わるモノを介したインタビュー、福祉とアートを接合する談話室の事例をモデルに「耳を傾ける技術」を学び、将来へと受け継ぐべき記憶を探り、分断されてきた課題のつながりと応答方法が創出される場をデザインする。 <プログラム: CASE-1「ことそこを待ちながら」> オリエンテーション 1 ・日 時: 2023年08月26日(土) 13:30～15:00 ・会 場: 京都市下京いきいき市民活動センター、京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺等 ・講 師: 倉智敬子、高橋 悟 ・受講生: 8名(8名欠席) <プログラム: CASE-2「彼女について知っている二、三の事」> ワークショップ: 前編「アナログ制音のグループワーク」 ・日 時: 2023年09月23日(土) 15:00～16:30 ・会 場: 公立大学法人京都市立芸術大学(新校舎 F棟:構想設計プロジェクトルーム)、 京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺等 ・講 師: 倉智敬子、小松千倫、清水チナツ、高橋 悟、田中功起、長崎由幹、山本麻紀子 ・受講生: 12名(4名欠席)／一般入場者: 5名 <会議・調査等> ・2023年05月08日(月)オンライン会議／出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年05月15日(月)オンライン会議／出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年06月09日(金)オンライン会議／出席講師: 奥山理子、高橋 悟 他出席者: 東 美沙季(一般社団法人HAPS Social Work / Art Conference) ・2023年08月02日(水)対面での会議／出席講師: 倉智敬子、高橋 悟 ・2023年08月21日(月)オンライン会議／出席講師: 高橋 悟、山本麻紀子 他出席者: 森本弘義(崇仁自治連合会会長) ・2023年09月05日(火)オンライン会議／出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年09月05日(火)オンライン会議／出席講師: 高橋 悟、山本麻紀子 ・2023年09月14日(木)オンライン会議／出席講師: 小松千倫、清水チナツ、高橋 悟、田中功起、長崎由幹 ※2023年09月30日以降、継続中							
アートマネジメント人材育成目標	申請時				達成状況			
	・他者のケアへの配慮を伴った聞き取りの技術を身につける。 ・記憶について個人という枠内ではなく人と人、人とモノ、人と自然を含む暮らしの生態系との関係から捉え直す。 ・フィールドでの個別の聞き取りから分断されてきた複雑な課題の背景やつながりへと思考を深める。 ・ソーシャルワークとアートの流儀の違いを踏まえながら、それらを結びつけるモデルを学ぶ。 ・地域での参加者だけでなくオンラインも含む多層的な鑑賞者へとコンテンツを届けること方法を学ぶ。 ・精神医療、福祉、芸術、キュレーションなど複数の領域における技術を学びながらも、それらを芸術実践の形式へと再構築する方法を学ぶ。				現地でのフィールドワークやワークショップを開催することで、知識のみに止まらない具体的な方法を体得するという計画通りの内容にて進んでいる。			
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	ワークショップでは、地域の暮らしの生態系の変化を肌で感じ取って頂けたと考える。 また、事前勉強としての複数のテキストや動画の配信を行ったことで、共通の知識を基盤とした意見交換が可能となった。 さらに、振り返りとして音声や動画での記録資料を配信することで、個別に受講生が思考を深められるサポートもを行っている。熱量の高い受講の形が継続できる手応えを得ている。							

活動②

講座名 企画名	テーマ ケア: 物語ること ～アルバムに貼られていないスナップショット							
講師名 出演者名	石橋義正 (映画監督/京都市立芸術大学美術学部教授) ※10月以降より、招聘 磯部洋明 (宇宙物理/京都市立芸術大学美術学部准教授) ※10月以降より、招聘 小松千倫 (美術家/音楽家/DJ) 清水チナツ (インディペンデント・キュレーター/PUMPQUAKES) 杉山雅之 (美術家/京都市立芸術大学非常勤講師) 高橋 悟 (美術家/本プログラムディレクター/京都市立芸術大学教授) 田中功起 (アーティスト) 長崎由幹 (映像技術者/PUMPQUAKES) 松井広志 (メディア論/愛知淑徳大学准教授) ※10月以降より、招聘 山田 毅 (美術家/蒐集家/京都市立芸術大学、京都芸術大学、京都精華大学非常勤講師) ※10月以降より、招聘							
日時	2023年08月26日(土)、09月23日(土) ※2023年09月30日以降、継続中			コマ数	2コマ ※2023年09月30日以降、継続中			
会場・教室	京都市下京いきいき市民活動センター、 京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺、 公立大学法人京都市立芸術大学 (新校舎 F棟: 構想設計プロジェクトルーム)				計画	実績	差	
				来場者	200	25	-175	
				育成対象者	10	16	6	
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	9	0	1	1	0	3	2
実施概要	「テーマ ケア: 物語ること ～アルバムに貼られていないスナップショット」では、「テーマ 環境: 聞くこと ～暮らしの生態系」と相補的な関係にあり、他者と地域の言葉を共有可能な物語へと組み立てる複数の技術を学ぶ。講師には多様な領域の専門家をゲストに招き言葉・イメージ・身体・音楽を介して他者へと伝える実践的な技術を学ぶ。最終プロジェクトの発表は「テーマ 公共空間: Still Moving ～崇仁でゴドーを待ちながら」で行われる。本テーマは、「テーマ 環境: 聞くこと ～暮らしの生態系」と呼応する形で進めている。 <プログラム: CASE-1「ことそこを待ちながら」> オリエンテーション 2 ・日 時: 2023年08月26日(土) 15:15～16:45 ・会 場: 京都市下京いきいき市民活動センター、京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺等 ・講 師: 倉智敬子、高橋 悟 ・受講生: 8名(8名欠席) <プログラム: CASE-2「彼女について知っている二、三の事」> ワークショップ: 後編「招聘講師がガイドするフィールドツアー」 ・日 時: 2023年09月23日(土) 17:00～18:30 ・会 場: 公立大学法人京都市立芸術大学(新校舎 F棟: 構想設計プロジェクトルーム)、 京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺等 ・講 師: 倉智敬子、小松千倫、清水チナツ、高橋 悟、田中功起、長崎由幹、山本麻紀子 ・受講生: 12名(4名欠席) / 一般入場者: 5名 <会議・調査等> ・2023年05月08日(月) オンライン会議 / 出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年05月15日(月) オンライン会議 / 出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年07月06日(木) オンライン会議 / 出席講師: 高橋 悟、田中功起 ・2023年08月02日(水) 対面での会議 / 出席講師: 杉山雅之、高橋 悟 他同席者: 平井 健(株式会社八木製作所) ・2023年09月04日(月) オンライン会議 / 出席講師: 高橋 悟、田中功起 ・2023年09月05日(火) オンライン会議 / 出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年09月14日(木) オンライン会議 / 出席講師: 小松千倫、清水チナツ、高橋 悟、田中功起、長崎由幹 ※2023年09月30日以降、継続中							
アートマネジメント 人材育成目標	申請時				達成状況			
	・社会的な課題をテーマとする芸術表現をめぐる困難や当事者と非当事者の倫理的責任について考察を深める。 ・個人の表現としてではなく、他者との対話と協働による「多重的な作者」のあり方を考える。 ・矛盾した主張により相対立するのではなく、矛盾した物語による豊かで多様な問いをひらくこと。 ・「物語ること」を複数化し、多様なメディアによる「多層的な鑑賞者」に向けたコンテンツ発信法を学ぶ。				計画通りに進んでいる。			
活動で得た課題 や経験、今後の 活用予定	本テーマは、「テーマ 環境: 聞くこと ～暮らしの生態系」と呼応する形で進めている。 受講生は複数の車に同乗し、小説「旧柳原銀行ドンツキ前」(著: 黒川 創 / 「京都」より抜粋)の音読を聞きながら地域を巡ることで、風景と視覚と言葉を織り合わせる手法を体験することになった。また、教室空間ではなく、車上という限定的な場で他者との対話を体験することにより、通常とは異なるコミュニケーションや、ケアとしての場作りの効果を実感して頂けたと考えている。							

活動③

講座名 企画名	テーマ 公共空間: Still Moving ～崇仁でゴドーを待ちながら							
講師名 出演者名	大西麻貴 (建築家/横浜国立大学教授) ※10月以降より、招聘 奥山理子 (Social Work/Art Conferenceディレクター/みずのき美術館キュレーター) 倉智敬子 (美術家) 小松千倫 (美術家/音楽家/DJ) 清水チナツ (インディペンデント・キュレーター/PUMPQUAKES) 高橋 悟 (美術家/本プログラムディレクター/京都市立芸術大学教授) 田中功起 (アーティスト) 長崎由幹 (映像技術者/PUMPQUAKES) 松井広志 (メディア論/愛知淑徳大学准教授) ※10月以降より、招聘 山内朋樹 (美学/京都教育大学准教授/庭師) ※10月以降より、招聘 山本麻紀子 (アーティスト/京都市立芸術大学非常勤講師)							
日時	2023年08月26日(土) ※2023年09月30日以降、継続中□				コマ数	1コマ ※2023年09月30日以降、継続中		
会場・教室	京都市下京いきいき市民活動センター、 京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺					計画	実績	差
					来場者	200	8	-192
					育成対象者	10	16	6
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設 職員	公共機関 職員	民間団体 職員	民間企業 社員	その他
	人数	9	0	1	1	0	3	2
実施概要	「テーマ 公共空間: Still Moving ～崇仁でゴドーを待ちながら」では、「テーマ: 環境: 聞くこと～暮らしの生態系」と「テーマ: ケア: 物語ること～アルバムに貼られていないスナップショット」でのリサーチを基盤に、空き地に仮説的な舞台を設営し記憶の物語が生まれるヘテロトピア的な状況を再構築する。それは古い課題を新しい視点から見る、自明に思われることを別の耳から聞くことができる場所とする制作行為である。 <プログラム/CASE-1「ことそこを待ちながら」> オリエンテーション 3 ・日 時: 2023年08月26日(土) 17:00～18:30 ・会 場: 京都市下京いきいき市民活動センター、京都市下京区塩小路通り北の開発予定地周辺 ・講 師: 倉智敬子、高橋 悟 ・受講生: 8名(8名欠席) <会議・調査等> ・2023年05月08日(月) オンライン会議/出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年05月15日(月) オンライン会議/出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年06月09日(金) オンライン会議/出席講師: 奥山理子、高橋 悟 他出席者: 東 美沙季(一般社団法人HAPS Social Work / Art Conference) ・2023年08月02日(水) 対面での会議/出席講師: 倉智敬子、高橋 悟 ・2023年08月21日(月) オンライン会議/出席講師: 高橋 悟、山本麻紀子 他出席者: 森本弘義(崇仁自治連合会会長) ・2023年09月05日(火) オンライン会議/出席講師: 清水チナツ、高橋 悟、長崎由幹 ・2023年09月05日(火) オンライン会議/出席講師: 高橋 悟、山本麻紀子 ・2023年09月14日(木) オンライン会議/出席講師: 小松千倫、清水チナツ、高橋 悟、田中功起、長崎由幹 ※2023年09月30日以降、継続中							
アートマネジメント 人材育成目標	申請時				達成状況			
	・新たな芸術大学をハブとした地域コミュニティ、介護施設、NPO法人、行政機関などとの創造的な連環を図る。 ・互いに相容れない構成体やグループのあいだに立ち、共存原理の翻訳者としての役割を考察する。 ・野外演劇、シンポジウム、展示という形式の異なる表現形態をコンセプトチャルな手法で組み合わせる技術を学ぶ。 ・「作る」ことが持っている可能性を特定の地域や歴史に限定せず時空間に閉じ込めないオルタナティブな方法を学ぶ。				計画通りに進んでいる。			
活動で得た課題 や経験、今後の 活用予定	本テーマは、「テーマ 環境: 聞くこと～暮らしの生態系」及び「テーマ ケア: 物語ること～アルバムに貼られていないスナップショット」と連環しながら、改めて芸術と社会が交差する公共空間の可能性を探求するイベント制作を目的としております。そのため8月までは、主に行政との設営場所の折衝、制作に関わる技術的な図面、制作などに注力してきました。 開催したセミナーを通じて、受講生の潜在的な可能性も把握出来る段階になっており、今後はより具体的な共同作業へと展開していきます。							